農林水産委員会　参考資料

青森の正直

決め手は、青森県産。

結集!! 青森力

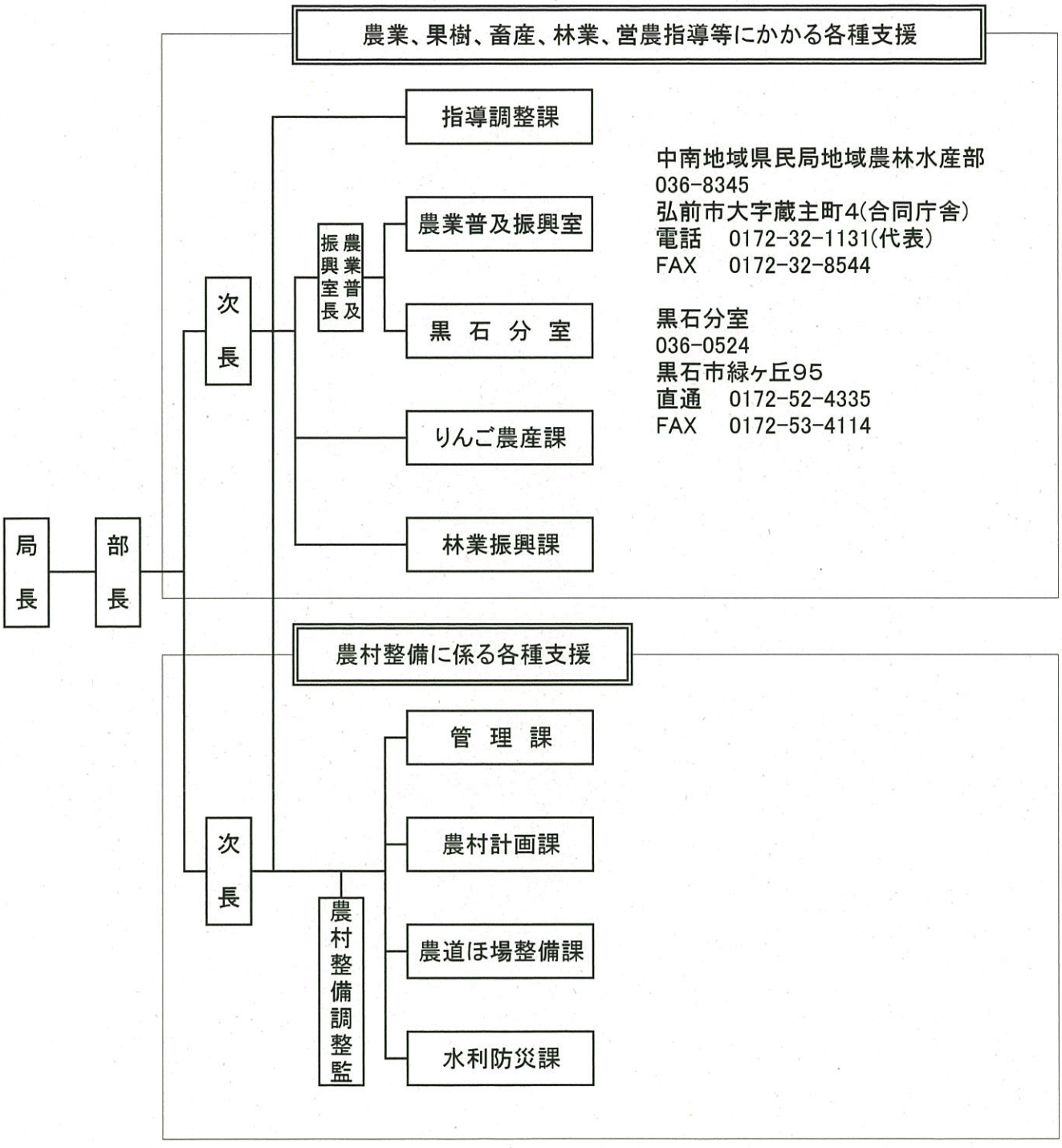
# 中南管内の農林水産業の概要

りんごと岩木山

平成２７年１０月

## 中南地域県民局地域農林水産部

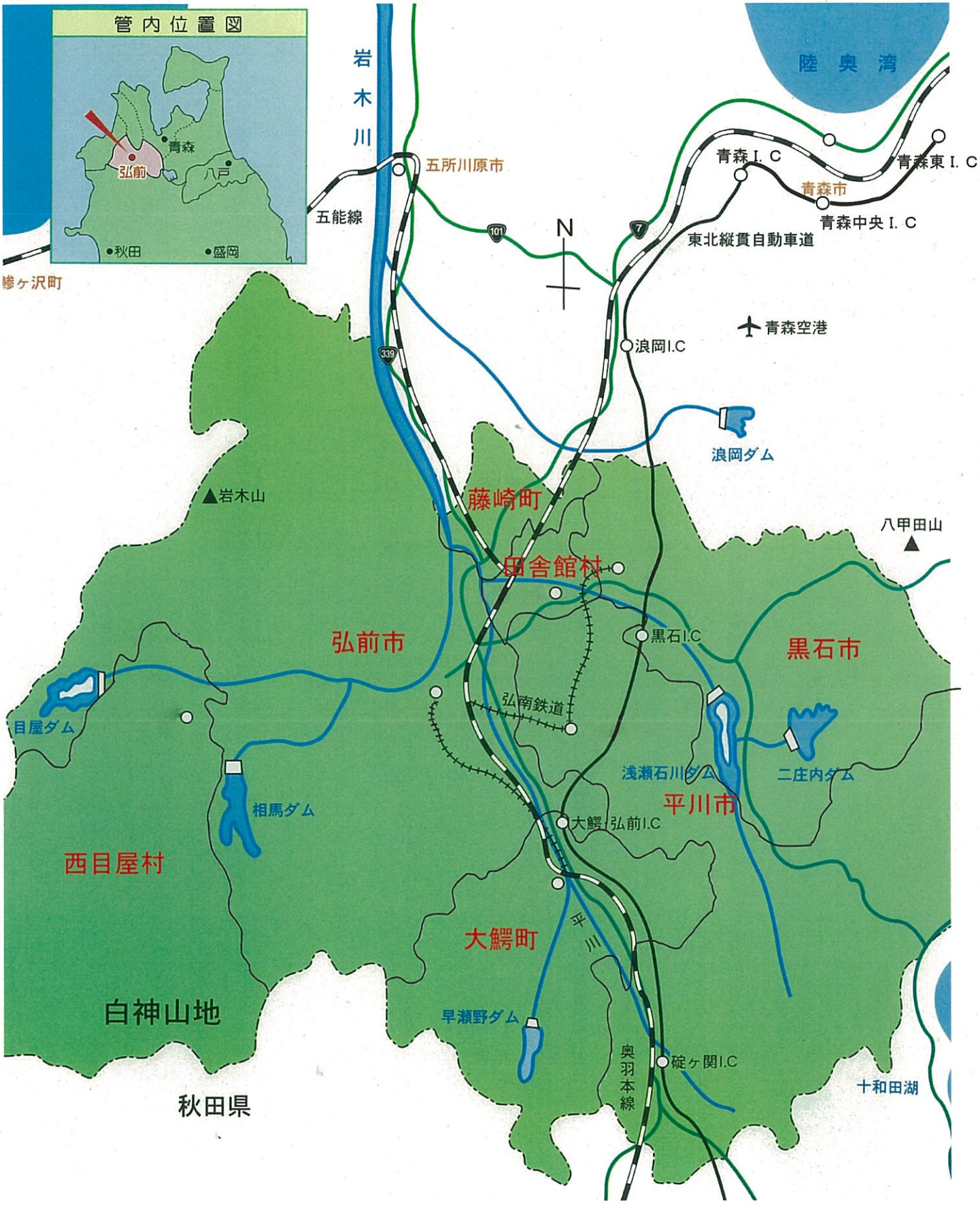
# 中南地域県民局地域農林水産部組織図




中南地域県民局地域農林水産部
036-8345
弘前市大字蔵主町4(合同庁舎)
電話　0172-32-1131(代表)
FAX　0172-32-8544

黒石分室
036-0524
黒石市緑ヶ丘95
直通　0172-52-4335
FAX　0172-53-4114

# 管　内　図


管内位置図
青森
弘前
八戸
秋田
盛岡
岩木川
五所川原市
五能線
陸奥湾
青森Ⅰ.C
青森東Ⅰ.C
青森市
青森中央Ⅰ.C
東北縦貫自動車道
N
101
7
339
浪岡I.C
青森空港
浪岡ダム
▲岩木山
藤崎町
田舎館村
八甲田山
弘前市
黒石I.C
黒石市
弘南鉄道
目屋ダム
相馬ダム
浅瀬石川ダム
二庄内ダム
平川市
大鰐弘前I.C
西目屋村
大鰐町
平川
白神山地
早瀬野ダム
奥羽本線
碇ヶ関I.C
十和田湖
秋田県

# Ⅰ．地域の概況

## １．位置・面積

中南地域は本県南西部に位置し、弘前市・黒石市・平川市・中津軽郡（西目屋村）・南津軽郡（藤崎町、大鰐町、田舎館村）の３市２町２村で構成されている。

総面積は県全体（約9,607km$^2$）の16％にあたる1,555km$^2$で、人口は県全体（約1,337千人）の21％にあたる約282千人となっている。

## ２．自然的条件

地勢は、西部に岩木山が、東部には八甲田山連峰がそびえ、南部には白神山地を抱えており、平野部は地域の中央にほぼ南北に開けている。

夏季は、20℃前後（6月～9月平均気温）のしのぎやすい気温が続き、台風も比較的少なく、冬季は北西の季節風が強く寒冷で、積雪期間（12月～3月）が長くなっている。

## ３．社会的経済的条件

本地域の交通は、JR 東日本の奥羽本線が弘前市を南北に、五能線が弘前～川部を経て北西に走っている。

平成22年12月には、東北新幹線新青森駅が開業し、「新幹線はやて・はやぶさ」により、仙台・首都圏方面へのアクセスが便利となった。

基幹的な道路として国道７号線が奥羽本線と並進しているほか、国道102号が弘前から十和田湖方面へ連絡し、地域の東部と東北縦貫自動車道が南北に走っている。

地域経済は、弘前市、黒石市が中心となっており、ともに米・りんごの生産が盛んである。弘前市は津軽藩10万石の城下町として発展し、国立大学のほかに私立の大学・短大・専門学校があり、特色ある文化学園都市を形成している。

## Ⅱ 中南の農林水産業の概要

中南地域は、平野部を中心に水田が、周囲の山沿地域にはりんご園が広がり、米とりんごの生産が盛んな本県の主要農業地帯である。

作付面積は、りんごが県全体の 62 %、米が県全体の 19 %を占め、りんごは日本一の生産量を誇っている。

また、八甲田山系の山間部では、夏でも涼しい気候を利用し、高冷地野菜の栽培が盛んである。

### 1．農業構造

（1）農家戸数

当管内の農家戸数（販売農家）は 13,209 戸で、県全体の 30.5 %を占めている。

専兼業別では、専業農家が 3 割、兼業農家が 7 割で、中でも第 2 種兼業が 4 割と多いが、県平均に比べると第 1 種兼業が多い。

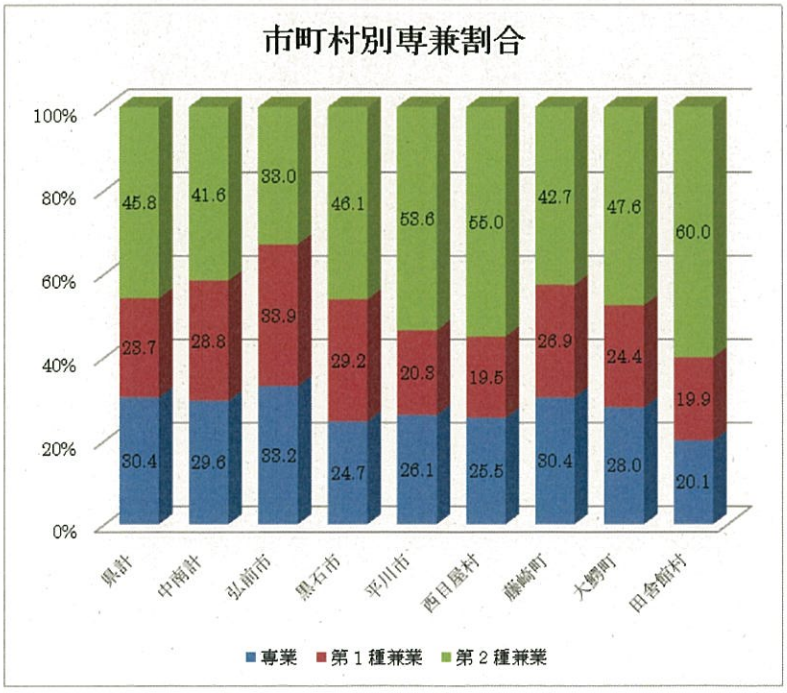
市町村別では、弘前市の専業及び第 1 種兼業農家の割合が高い。

○専兼別農家数（販売農家）

（単位：戸、%）

| 区分 | 専業農家 | 兼業農家 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 第 1 種兼業 | 第 2 種兼業 | |
| 中南 | 3, 908 | 9, 301 | 3, 801 | 5, 500 | 13, 209 |
| 割合 | 29. 6 | 70. 4 | 28. 8 | 41. 6 | 100. 0 |
| 県 | 13, 188 | 30, 126 | 10, 278 | 19, 848 | 43, 314 |
| 割合 | 30. 4 | 69. 6 | 23. 7 | 45. 8 | 100. 0 |
| 中南割合 | 29. 6 | 30. 9 | 37. 0 | 27. 7 | 30. 5 |

（2010年農林業センサス）




(2010 年農林業ｾﾝｻｽ)

（２）担い手

ア　認定農業者

中南管内における認定数は、18年度に大幅に拡大し、増加傾向にあったものの、５年後の更新時期となる23年度に再認定辞退者が多くなり、一旦減少した。

なお、24年度は2,330経営体でうち法人は65経営体、営農類型は果樹単一経営体が多い。

| | H18年度 | H20年度 | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 弘前市 | 1,029 | 1,187 | 1,225 | 1,260 | 1,088 | 1,163 |
| 黒石市 | 194 | 249 | 273 | 283 | 311 | 318 |
| 平川市 | 375 | 432 | 437 | 451 | 435 | 413 |
| 西目屋村 | 19 | 25 | 27 | 28 | 32 | 32 |
| 藤崎町 | 162 | 192 | 196 | 208 | 212 | 215 |
| 大鰐町 | 76 | 91 | 102 | 105 | 105 | 108 |
| 田舎館村 | 91 | 89 | 85 | 76 | 79 | 81 |
| 中南合計 | 1,946 | 2,265 | 2,351 | 2,411 | 2,262 | 2,330 |
| 県　　計 | 7,490 | 8,938 | 9,247 | 9,344 | 8,731 | 8,868 |

（農業普及振興室調べ）

イ　集落営農組織

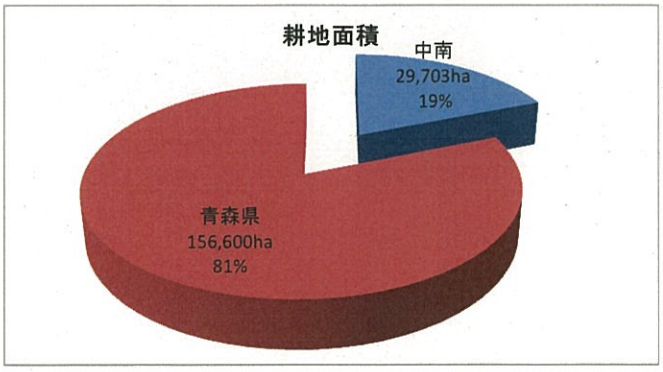
中南管内における集落営農組織数は、19年度の25組織から、25年度は49組織に拡大し、県全体に占める中南の比率は約36％（法人組織では約48％）となっている。

| | 19年度 | | 23年度 | | 24年度 | | 25年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | うち法人 | | うち法人 | | うち法人 | | うち法人 |
| 弘前市 | 10 | 3 | 26 | 6 | 28 | 8 | 28 | 8 |
| 黒石市 | 2 | 1 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 | 1 |
| 平川市 | 8 | 2 | 9 | 2 | 9 | 2 | 9 | 2 |
| 西目屋村 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 3 | 0 |
| 藤崎町 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 大鰐町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 田舎館村 | 3 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 |
| 中南計 | 25 | 8 | 43 | 11 | 48 | 13 | 49 | 13 |
| 県　計 | 103 | 14 | 135 | 24 | 133 | 26 | 136 | 27 |
| 中南割合 | 24 | 57 | 32 | 46 | 36 | 50 | 36 | 48 |

※集落営農組織数は、水田・畑作経営所得安定対策（H19は品目横断的経営安定対策）に加入した組織数。（25年度は9月末現在）

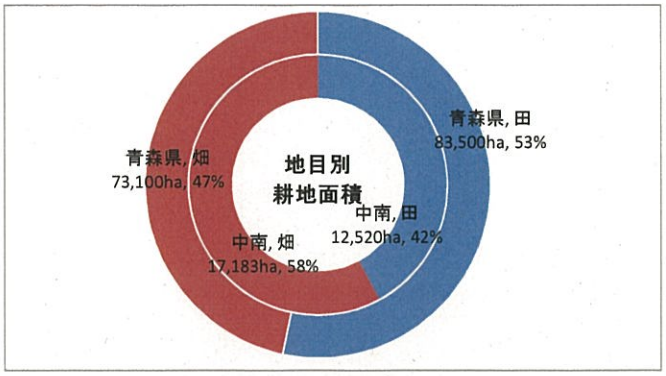
（３）耕地面積

中南管内の耕地面積は29,703ha で、県全体の19％を占めている。




（H23年農林水産統計年報統計）

地目別では、畑が17,183ha で58％を占め県より11ポイント多く、田が12,520haで42%を占め県より11ポイント少なくなっている。

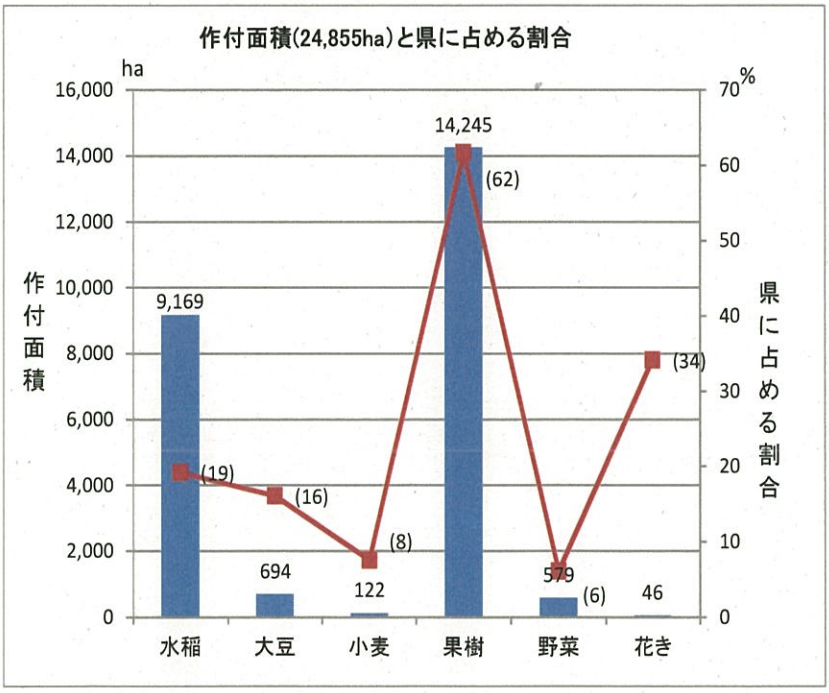



(H23年農林水産統計年報)

（4）農作物作付面積

中南管内の主要な農作物の作付面積は24,855haで、県全体の29%を占めている。

作目別では、りんごを主体とした果樹が14,245ha（県全体の62%）で最も多く、次いで水稲が9,169ha（同19%）、大豆694ha（同16%）、野菜579ha（同6％）などとなっている。




※ 水稲、大豆、小麦:H24年農作物統計
果樹:中南はH24特産果樹生産動態等調査、青森県はH24果樹生産出荷統計
野菜、花き:農作物生育観測ほ等調査

## 2．農業生産

（1）果樹

ア　りんご

りんごの栽培面積は１３，７８０ha（県全体の約６６％）で減少傾向にある。

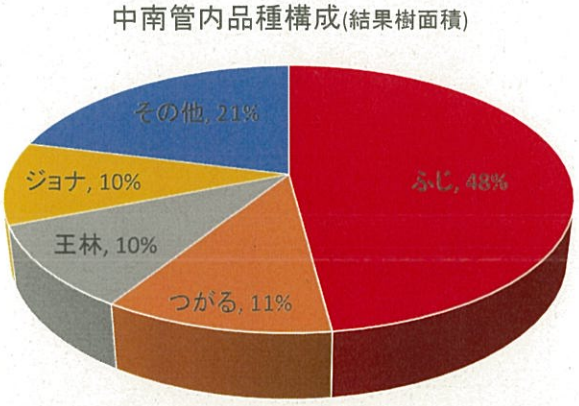
また、わい化栽培面積も平成２６年度から始めて減少に転じた。

品種別には「ふじ」が最も多く、次いで「つがる」、「王林」、「ｼﾞｮﾅｺﾞｰﾙﾄﾞ」の順となっている。近年は、その他の黄色品種や新品種が導入されている。

表１　りんご栽培面積及びわい化栽培面積　（単位：ha,%）

| 区　分 | りんご栽培面積 | | | わい化栽培面積 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | H 10 | H15 | H26 | H 10 | H15 | H26 |
| 弘　前　市 | 9,160 | 9,083 | 8,698 | 923 | 1,148 | 1,628 |
| 黒　石　市 | 1,688 | 1,644 | 1,227 | 323 | 432 | 519 |
| 平　川　市 | 2,050 | 2,005 | 1,822 | 290 | 363 | 461 |
| 藤　崎　町 | 896 | 867 | 733 | 139 | 178 | 237 |
| 大　鰐　町 | 1,158 | 1,108 | 990 | 88 | 101 | 129 |
| 西目屋村 | 135 | 130 | 77 | 6 | 6 | 9 |
| 田舎館村 | 256 | 249 | 233 | 29 | 40 | 56 |
| 中南管内計① | 15,343 | 15,086 | 13,780 | 1,798 | 2,268 | 3,039 |
| 青森県計　② | 24,115 | 23,331 | 20,907 | 3,384 | 4,125 | 4,829 |
| ①／② | 63.6 | 64.7 | 65.9 | 53.1 | 55.0 | 62.9 |

※りんご果樹課調べ（属人）



りんごわい化園（平川市）の栽培状況

「ひろさきふじ」

イ　特産果樹

特産果樹は、ぶどう、おうとう、西洋なし、ももが中心である。この中で、ももの栽培面積は、平成１５年産に比べ２.５倍以上の伸びを示し、産地づくりが進んできている。

表２　主要特産果樹栽培面積　（単位：ha）

| 区　分 | ぶどう | | おうとう | | 西洋なし | | もも | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | H15 | H25 | H15 | H25 | H15 | H25 | H15 | H25 |
| 弘　前　市 | 56 | 52 | 17 | 16 | 17 | 13 | 7 | 13 |
| 黒　石　市 | 31 | 32 | 2 | 4 | 4 | 0 | 0 | 5 |
| 平　川　市 | 35 | 33 | 3 | 6 | 6 | 8 | 8 | 17 |
| 藤　崎　町 | 20 | 19 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 大　鰐　町 | 6 | 6 | 0 | 0 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| 西目屋村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 田舎館村 | 16 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 中南管内計 | 164 | 146 | 24 | 28 | 31 | 26 | 17 | 43 |

※特産果樹動態等調査等調べ（りんご果樹課）

スチューベン

川中島白桃の斜立主幹形

（２）水稲

平成２６年の作付面積は９，０９１ｈａで県全体の約１９％を占めており、品種は「つがるロマン」が主体であるが、山間冷涼地帯では「まっしぐら」が作付けされている。

中南地域は県内一の良質米地帯であるが、近年は、猛暑による高温障害の発生が課題となっている。

表３　平成２６年産水稲作付状況等　（単位:ｈａ、ｔ）

| 市町村名 | 作　付　面　積 | 収　穫　量 |
|---|---|---|
| 弘　前　市 | ３，２６０ | ２０，１００ |
| 西目屋村 | １０６ | ６１７ |
| 黒　石　市 | １，２８０ | ８，０２０ |
| 平　川　市 | １，９７０ | １２，３００ |
| 藤　崎　町 | １，３５０ | ８，６４０ |
| 大　鰐　町 | ２１６ | １，２００ |
| 田舎館村 | ９０９ | ５，８００ |
| 中　南　計 | (18.7%) ９,０９１ | (19.1%) ５６,６７７ |
| 県　　計 | (100%) ４８,６００ | (100%) ２９６,５００ |

稲穂と岩木山

（３）野菜

管内の野菜の作付面積は、だいこん、スイートコーン、にんじん、にんにくが多く、「夏秋トマト」、「夏だいこん」、「秋にんじん」、「夏秋レタス」は産地指定されている。

平川市と黒石市の南八甲田高冷地ではだいこん、にんじん、レタス等の産地が、弘前市、平川市、大鰐町を中心とした平地では夏秋トマトの産地が形成されている。

また、弘前市岩木山麓のスイートコーン（嶽きみ）、藤崎町常盤地区のにんにく等、地域独自のブランドづくりの取組も広がっている。

にんじんの収穫風景

表４　野菜の作付面積（平成２６年度）　（単位：ha）

| | だいこん | ｽｲｰﾄｺｰﾝ* | にんじん | にんにく | トマト | レタス | えだまめ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 弘前市 | 0 | 149 | 0 | 3 | 7 | 0 | 14 |
| 黒石市 | 61 | 3 | 21 | 0 | 8 | 20 | 0 |
| 平川市 | 47 | 0 | 70 | 0 | 9 | 10 | 0 |
| 西目屋村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 藤崎町 | 0 | 0 | 0 | 69 | 2 | 0 | 1 |
| 大鰐町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| 田舎館村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 1 |
| 合　　計 | 108 | 152 | 91 | 73 | 38 | 30 | 16 |

農業普及振興室調べ

＊弘前市のｽｲｰﾄｺｰﾝは種子販売量により算出。 注）ラウンドの関係上、合計値は一致しない。

（４）畑作

主な作目は転作作物として大豆、小麦、そばが作付けされている。

作付面積は、大豆が６１６ｈａ、小麦が８８ｈａ、そばが３８ｈａとなっている。

表５　市町村別作付面積（平成２６年度）（単位：ha）

| 市町村名 | 大　豆 | 小　麦 | そ　ば |
|---|---|---|---|
| 弘前市 | 305 | 20 | 0 |
| 黒石市 | 2 | 66 | 0 |
| 平川市 | 161 | 0 | 0 |
| 西目屋村 | 2 | 0 | 38 |
| 藤崎町 | 99 | 0 | 0 |
| 大鰐町 | 3 | 0 | 0 |
| 田舎館村 | 44 | 2 | 0 |
| 合　　計 | 616 | 88 | 38 |

農業普及振興室調べ

大豆転作田

（5）花　き

管内の主な品目は、キク、トルコギキョウ、ヒマワリ、アルストロメリア等の切花、次いでケイオウザクラやスモークツリー等の花木類となっている。

花きの作付面積は、国内需要の低迷や労働力不足等の影響により、面積・産出額ともに減少傾向にある。

花きの作付面積、産出額（平成25年）

| 市町村等 | 作付面積(a) | | | | | | 産出額(千円) | 主たる品目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 切り花類 | 鉢物類 | 苗物類 | 球根類 | 花木類 | | |
| 弘前市 | 2,148 | 1,542 | 247 | 101 | 140 | 118 | 252,836 | ﾄﾙｺｷﾞｷｮｳ、ｹｲｵｳｻﾞｸﾗ |
| 黒石市 | 211 | 90 | 100 | 20 | | 1 | 88,600 | ﾄﾙｺｷﾞｷｮｳ、鉢もの |
| 平川市 | 579 | 563 | 10 | 6 | | | 74,668 | ｷｸ、ﾄﾙｺｷﾞｷｮｳ |
| 藤崎町 | 436 | 252 | 75 | 5 | | 104 | 142,582 | ｱﾙｽﾄﾛﾒﾘｱ |
| 大鰐町 | 71 | 71 | | | | | 5,158 | ｷｸ、枝もの |
| 西目屋村 | 71 | 71 | | | | | 2,471 | ﾘﾝﾄﾞｳ |
| 田舎館村 | 389 | 210 | 179 | | | | 84,289 | ﾊﾞﾗ、ヒマワリ、ｼｸﾗﾒﾝ |
| 中南計 | 3,905 | 2,799 | 611 | 132 | 140 | 223 | 650,604 | |
| 青森県計 | 11,977 | 9,114 | 1,232 | 528 | 140 | 562 | 1,971,000 | |
| 中南シェア(%) | 32.6 | 30.7 | 49.6 | 25.0 | 100.0 | 39.7 | 33.0 | |

（資料:農産園芸課）

アルストロメリア

ケイオウザクラ

## （6）畜　産

### ア　概　要

中南管内の畜産は、飼養農家数・頭羽数とも少なく、飼養頭羽数で全県に占める割合は、５％以下となっている。

農業における畜産のウェイトは低いが、土づくりを基本とした環境にやさしい農業への取組意欲が高まる中、家畜排せつ物を活用した堆肥の生産・流通の担い手として、その活躍が期待されている。

**■畜種ごとの飼養頭羽数（平成26年2月1日現在）**　（単位:頭・羽・%）

| 区　分 | 乳用牛 | 肉用牛 | 豚 | 採卵鶏 |
|---|---|---|---|---|
| 中南管内　A | 152 | 1,033 | 10,488 | 232,913 |
| 青森県　B | 13,289 | 57,901 | 389,943 | 6,847,549 |
| 割　合　A／B | 1.1 | 1.8 | 2.7 | 3.4 |

### イ　乳用牛

弘前市内の酪農家が「青森地方酪農農業協同組合」を組織し、萩原乳業株式会社（弘前市）に生乳を納入。県産牛乳生産の一翼を担っているほか、五所川原市内の水稲農家と提携し、飼料用稲の利用による飼料コストの低減に努めている。

### ウ　肉用牛

津根川森放牧場では、定期的に衛生管理も実施

黒毛和種の繁殖及び一貫経営が行われており、一貫経営では県事業を活用した黒毛和種の改良を進めているほか、平川市の公共牧野、津根川森放牧場では、管外からの受入も実施しており、人工授精や種雄牛による自然交配による、繁殖牛の受胎率向上に向けた取組が行われている。

乳用種等では、預託による肥育経営も行われている。

### エ　養　豚

弘前市の岩木山麓に施設が集中しており、多頭化による経営コスト低減に努めている。

### オ　養　鶏

（ア）採卵鶏は、黒石市、平川市、藤崎町を中心に飼養され、良質な鶏卵が生産されている。特に、藤崎町では飼料用米を給与した飼料自給率の高い鶏卵「こめたま」が生産され、もみ殻と鶏ふんの堆肥を活用した循環型農業の取組も進められている。

（イ）肉用鶏では、大鰐町に特産地鶏「青森シャモロック」の指定生産農場があり、県内の他農場と連携し、ブランド化に向けた取組がなされている。

## ３．林業

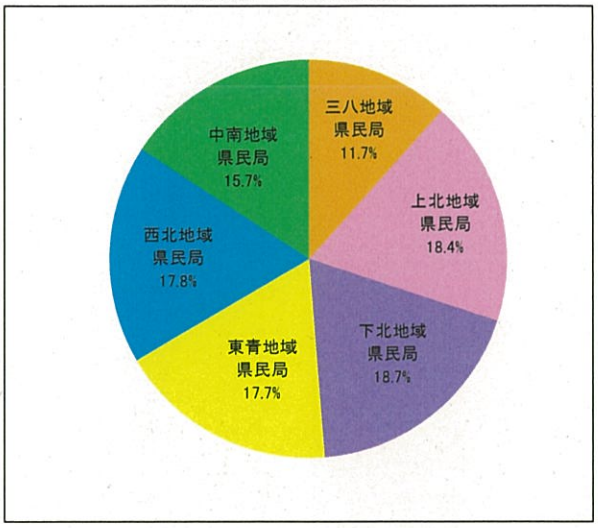
### （１）森林資源の状況

当管内の森林面積は、９９，７６９haで、県全体の１５．７％を占めている。

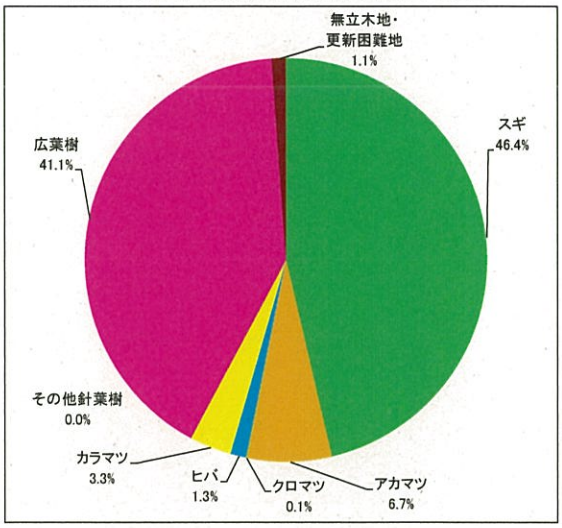
そのうち民有林面積については２７，３３０ haで管内森林面積の２７％を占め、スギを主体とする人工林の面積は民有林面積の５４％を占めている。

人工林は、９から１０齢級（４１年生から５０年生）で蓄積が最も多く、森林資源として本格的な利用が可能となる段階を迎えている。

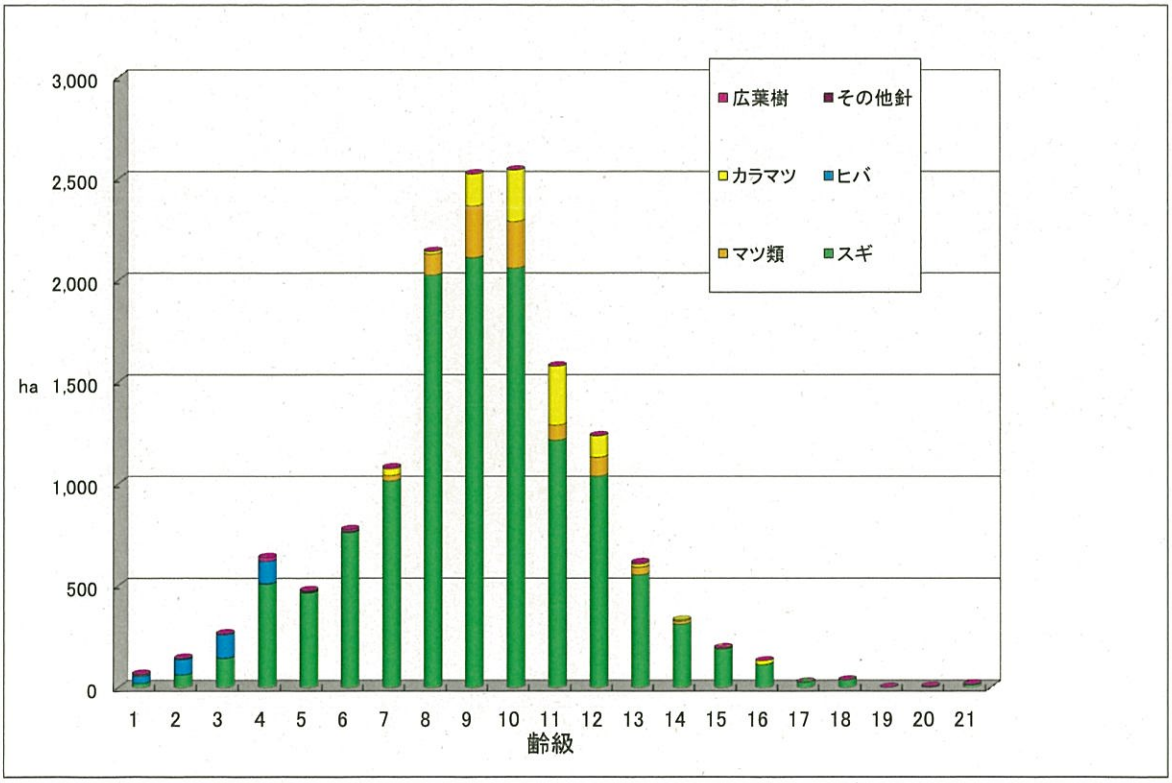
管内別森林面積の割合




管内民有林の樹種別森林面積の割合




民有林人工林の樹種別齢級構成




青森県森林資源統計書（平成２４年４月）より

## （２）森林の保全・整備

水源のかん養や土砂流出防備など県土保全のほか、近年では地球温暖化の防止に向けた森林吸収源対策を推進するために、治山事業による森林の保全対策や間伐の推進による森林整備を積極的に進めている。

### １）治山事業

豪雨や地震、台風などによる山地災害を未然に防止し、被害を最小限にとどめるために治山事業を推進している。

また、工事では間伐材を積極的に利用するなど自然環境に配慮した工種・工法に取り組んでいる。

平成２７年度は、弘前市、黒石市、平川市、大鰐町、西目屋村において、林地崩壊箇所を復旧する山腹工事や、荒廃渓流の土砂流出を抑止する治山ダム工事を実施することとしている。

木材を積極的に利用した治山ダム

### ２）林道事業

木材などの林業生産物の運搬や森林整備の実施、山村集落間の生活道や災害避難路としての役割を担う林道の整備を行っている。

平成２７年度は、弘前市及び黒石市で国庫林道災害復旧事業を実施するほか、弘前市及び西目屋村で県単林道事業を実施する。

林道を利用した木材の搬出

### ３）森林整備事業

森林の有する公益的機能を持続的に発揮しながら、安定した木材生産を行うために多様な森林整備を推進している。

人工林については、４５年生前後のスギ林が多く資源的に充実してきており、平成２６年度は約１２３haの搬出間伐を実施した。

スギ人工林の間伐実施状況

## （３）林業・木材産業の振興

管内の充実しつつある人工林資源の循環利用を進めるために、「青森スギ」を中心とする県産材の低コスト生産や需要拡大を川上・川下で一体的に推進している。

### １）高性能林業機械による効率的な搬出間伐の推進

当管内では、ハーベスタ・フォワーダなどの高性能林業機械の導入が進んでおり、施業地の団地化による施業集約を進めることにより効率的な搬出間伐を実施し、素材生産コストの低減を図っている。

これにより、間伐材の販売収入で森林所有者の負担軽減を図ることができるため、間伐の一層の推進が期待されている。

高性能林業機械による低コスト搬出間伐

### ２）施業集約化の推進

平成２３年度から森林管理・環境保全整備直接支払制度が導入され、間伐対象地を団地化して施業を集約化し、間伐材を利用するために搬出間伐を推進している。

そのため、森林組合、市町村、県が協力して、間伐対象林分の抽出、現地調査、森林所有者を対象とする地区座談会等を実施し、施業の集約化に取り組んでいる。

説明会等の様子

### ３）県産材利用の推進

木製玩具等とのふれあいを通じて、木の良さや利用の意義を学ぶ「木育」に取り組み、幼稚園・保育園での木育体験や街中木育広場等の開催による普及啓発を行っている。

また、管内の建築士、大工・工務店、林業関係者等で構成された「青森スギで家を建てる中南地域会」が、県産材を多用した住宅の建設に取り組んでいるほか、バスツアーなどの各種イベントを実施し、県産木材の良さや使うことの意義について普及啓発活動を展開している。

木育一日体験教室の様子

## 4．農村整備

農業農村整備は、「攻めの農林水産業」の強力かつ着実な推進に資するため、「農業の競争力強化」と「農村地域の防災･減災」、「農業･農村の多面的機能の発揮」を柱に施策を展開し、「力強い農業と魅力あふれる農村の実現」を目指している。

### （1）農業の競争力強化

#### ①担い手への農地の集積･集約化の推進及び担い手の育成に資する生産基盤整備の推進

管内の水田は、12,261 ヘクタールのうち 98 パーセントが整備されているものの、昭和 20～30 年代に整備された 30 アール未満の小区画水田が 36 パーセントを占めており、整備水準が低い水田が多い。

今後、担い手への農地の集積･集約化の促進や、意欲的かつ安定的な担い手を育成するため、農業生産性の向上や水田農業の競争力強化につながるほ場整備事業を、市町村や土地改良区等と連携し計画的に推進する。

大区画水田での田植え作業

経営体育成基盤整備事業　福島徳下地区

《水田の整備状況》　(ha)

| 地域 | 水田面積 | 整備済面積 | | 30a 区画以上 | | 30a 区画未満 | | 未整備面積 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中南 | 12, 261 | 11, 957 | (98%) | 7, 532 | (61%) | 4, 425 | (36%) | 304 | (2%) |
| 県全体 | 83, 048 | 67, 643 | (81%) | 43, 086 | (52%) | 24, 557 | (30%) | 15, 405 | (19%) |

注）1．整備済面積は、平成 23 年度までの「東北農政局調べ」面積に、平成 24、25 年の整備面積を合算したもの。
2．水田面積は「平成 25 年作物統計調査」（農林水産省）による。

また、担い手が中心となって、米だけに依存しない効率的な農業経営を展開するとともに、地域の多様な農業戦略への対応を進める観点から、畑地帯の総合整備や農産物輸送の効率を高める農道整備などを推進する。

りんご園の給水施設と農道の整備
畑地帯総合整備事業　下湯口地区

りんご園内の基幹農道の整備
一般農道整備　内山地区

## （2）農村地域の防災･減災

### ①農業水利施設の長寿命化･耐震化･洪水対策の推進

管内の農業用用排水路の延長は約３千６百キロメートルにおよび、県全体１万１千キロメートルの 1/3 を占めている。これらの施設は、老朽化が進行した施設が多く、用水の安定供給に支障を来しているため、適切な機能診断とそれに基づく保全対策により、施設の長寿命化を計画的に推進する。

また、自然災害から地域住民の生命・財産を守るとともに、安全・安心な農村づくりのため、ため池整備や地すべり防止などの農村の防災対策を推進する。

老朽化した水路(手前)の整備(奥が整備済)
基幹水利施設ストックマネジメント事業
庄司川上堰幹線用水路地区

## （3）農業・農村の多面的機能の発揮

### ①農村の地域資源の適切な保全管理の推進

農業･農村の有する多面的機能の維持･発揮と担い手農家への農地集積を後押しするため、農業者や地域住民で構成する活動組織が地域ぐるみで取り組む、農用地、水路、農道等の地域資源の適切な保全管理活動に対し、多面的機能支払交付金により支援する。

また、農業生産条件の不利な中山間地域等においては、農業･農村の有する機能を維持するため、耕作放棄地の発生防止や水路･農道等の管理等の農業生産活動を継続するための活動に対し、中山間地域等直接支払交付金により支援する。

管内では、多面的機能支払交付金に７市町村 96 組織、中山間地域等直接支払交付金に５市町村 141 組織が取り組んでおり、それぞれの地域で活動を展開している。

《活動組織の活動状況》

農村環境保全のための植栽活動

耕作道の砂利補修の状況

《多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金の取組状況》 (ha)

| 市町村名 | 農振農用地 | 多面的機能支払交付金 | | | 中山間地域等直接支払交付金 | | 多面的＋中山間 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 組織数 | 協定農用地 | うち中山間重複 | 組織数（協定数） | 協定農用地 | 協定農用地合計 | カバー率 |
| 弘前市 | 14,383 | 33 | 2,172 | 10 | 79 | 1,688 | 3,850 | 26.8% |
| 黒石市 | 3,638 | 12 | 686 | － | 21 | 426 | 1,112 | 30.6% |
| 平川市 | 5,061 | 26 | 1,397 | － | 20 | 1,299 | 2,696 | 53.3% |
| 西目屋村 | 397 | 3 | 210 | 168 | 5 | 196 | 238 | 59.9% |
| 藤崎町 | 2,385 | 16 | 1,669 | － | － | － | 1,669 | 70.0% |
| 大鰐町 | 1,287 | 1 | 19 | 14 | 16 | 612 | 617 | 47.9% |
| 田舎館村 | 1,394 | 5 | 389 | － | － | － | 389 | 27.9% |
| 管内計 | 28,545 | 96 | 6,541 | 192 | 141 | 4,221 | 10,570 | 37.0% |
| 県全体 | 132,106 | 442 | 39,797 | 722 | 596 | 11,275 | 50,350 | 38.1% |

注）１．多面的機能支払交付金は、青森県農地・水・環境保全向上対策地域協議会資料（H27.3時点）による。
２．中山間地域等直接支払交付金は、中南地域県民局地域農林水産部資料（H27.3時点）による。
３．中山間地域等直接支払交付金の県全体は県農村整備課資料（H25時点）による。

### ②暮らしやすい活力ある農村づくりの推進

快適で暮らしやすい活力ある農村づくりのため、農業集落排水施設や農業集落道などの生活環境基盤の整備を推進する。

また、頭首工への魚道整備等により、自然や景観と農業生産が調和した豊かな田園自然環境の保全・創造を推進する。

管内の農業集落排水施設は、平成26年度末時点で整備対象37地区のうち36地区が整備を終えて供用開始しており、残る1地区については平成27年度から整備を進めていく。

農業集落排水処理施設
農業集落排水事業　裾野新和北地区

《農業集落排水施設の整備状況》 (地区)

| 市町村名 | 整備対象地区 | 整備済地区 | 整備率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 弘前市 | １４ | １３ | 92.9% | 1地区はH27整備着手 |
| 黒石市 | 1 | 1 | 100.0% | |
| 平川市 | 7 | 7 | 100.0% | |
| 西目屋村 | 6 | 6 | 100.0% | |
| 藤崎町 | 8 | 8 | 100.0% | |
| 大鰐町 | － | － | － | |
| 田舎館村 | 1 | 1 | 100.0% | |
| 管内計 | ３７ | ３６ | 97.3% | |
| 県全体 | １４６ | １２０ | 82.2% | 整備中1地区 |

注）県農村整備課資料による。